

①基本情報処理技術者試験講座(選択)(第2 quarter～第4 quarter)

情報処理推進機構が実施している「基本情報処理技術者試験」(レベル2)合格のための講座。IT業界での就業を希望していない場合であっても、レベル2程度の知識・能力はビジネスパーソンとして具備しておくことが望ましいと言えよう。もちろん、レベル1(ITパスポート)も必要であるが、これは学生や一般生活者が有していなければならないもっとも基礎的な知識・能力を判定する資格試験であり、必ずしも十分であるとは言えない。一般のビジネスパーソンにとって、この資格試験合格がどの程度の意義を有しているか必ずしも明確ではないが、世界で活躍する一線のビジネスマンがもつIT知識・経験の水準は、少なくともわが国のそれを上回っている。明日のビジネス・シーンを想定した場合、この資格試験合格程度の知識はむしろ不可欠といってもよいであろう。

一定の水準を超えるIT知識を学ぼうとするのであれば、目標の具体化と明確化という観点からも資格取得を「一里塚」と考えるのも悪くはないのではなかろうか。この講座では、基礎的なIT知識をもっているという条件で、4ヶ月から6ヶ月の学習で資格を取得しようというものである。①及び②に加えて、午後問題に的を絞った学習を積み重ねるとともに、獲得した知識を実際の場面に活かすという視点を常に持ち続けられるよう応用力の強化にも努める。

参加者は、管理者と協議しながら自らの知的資産を前提として独自の学習計画を立て、その計画に沿って段階的に学習を進める。午後問題領域を中心に必要なテキストを配賦し、定期的に学習達成度をチェックする。

期間	6ヶ月～9ヶ月(春受験か秋受験かを選択)
密度	自己設計した学習計画による
場所	配賦テキストによる自己学習、メールでの指導
義務	課題への解答、自己学習
評価	自己採点→評価→再学習

②アルゴリズムを学ぶ講座(選択) (第 2 quarter～第 4 quarter)

プログラミング言語を用いて、実用に具するシステムを作成する講座。自宅での自己学習に加えて、定期的に研修会場に集まってもらって直接的な指導も付加する。Flowchart、PAD 図等による基本設計、プログラミング、デバッグ、コンパイル、運用までの一連のプロセスを実際に体験しつつ創造する喜びを味わってもらう。

使用する言語は、③との兼ね合いで C/C++、そして開発現場では殆ど使われることがないものの教育用言語として評価が高い Pascal を用いる。何よりも構造的な構想力、緻密な思考力、デバッグを繰り返すことでの継続的耐性の強化、創造性の培養、等々を目的としている。

最初、2 回程の集合研修でプログラミングの前提となるハード、ソフトの基礎知識、開発ツール、基本設計、構造化等について実習形式で講義し、初歩的な言語マニュアルを配賦する。続いて、配賦マニュアルを自己学習し、演習問題を解いていく。質疑等はメールでの遣り取りを通じて行い、一定期間経過後に 2 週間に 1 回のペースで実習研修を実施する。演習といえども、常にビジネスを想定した課題を提示し、どのようなアプリがあると便利かを念頭におきながらプログラミングをすすめていく。学習段階では C++ のインタプリタを用いて、coding されたプログラムを動かしながらプログラミングの要諦を学んでいく。

講座の最終課程では、実用になる経営診断(経営分析)をほぼ自動的に展開するアプリを作成し、ビジネスの現場で活用できるシステムとは何か、ビジネスにおける情報化の方向性、等についても学ぶ。

期間	9 ヶ月
密度	1 週に 1 回の実習 + 自宅学習 + メールでの質疑
場所	集合研修と自宅学習 + メールでの質疑
義務	毎週の課題提出 + 実用ソフト作成
評価	課題提出状況、実習、最終課題等を総合的に評価